

在宅療養を支える研修会 第一回開催

看護師の特定行為研修がスタートし、約3年が経過しました。当院でも4名の研修修了者(創傷管理関連)を輩出いたしました。

この特定行為研修修了者は、医師の手順書に沿って、医師の立ち合い等がなくなるとも処置等が行えるようになります。

在宅療養を強化するためにも、特定行為研修制度とその内容について、地域の開業医の先生、施設職員の方及び当院職員を対象とし、研修会を8月23日に開催いたしました。

研修会には、滋賀県湖東健康福祉事務所彦根保健所所長の切手俊弘(きってとしひろ)先生をお招きし、講演していただきました。多数の方々にご出席いただき、特定行為研修の意義や現状についてご理解いただけたかと思えます。

当院で実施している平成30年度看護師特定行為研修には、他の医療機関より2名の参加があり、現在研修中です。

全国的にも未だ特定行為研修修了者は少ないという現状ですが、研修修了者が増えていくことで、今後は在宅療養の場でも活躍していくことが期待されます。



「協働する医師から見た
特定行為修了者」
滋賀県湖東健康福祉事務所
彦根保健所 切手敏弘 先生
平成30年8月23日(金)開催

来年度の特定行為研修(創傷管理
関連)については当院看護部までお
問い合わせください。

EOLケアを考えるPTT活動報告

EOLケアって？

EOL(エンドオブライフ)とは「最期までその人らしく生きる」と定義されています。

本院では、最期まで「その人らしく生きる」ことができるように支援すること(EOLケア)について考えるプロジェクトチームを発足し、以下の取り組みを行っています。

★EOLについて考える組織づくり

【継続的にEOLについて考えられる仕組みづくり】

★倫理カンファレンスの開催
【本人の希望を尊重した医療・ケア・意思決定支援の提供】

★啓発活動・研修の開催
【臨床倫理を考える院内全体の意識付け】

EOLに関するフリーディスカッションの様子

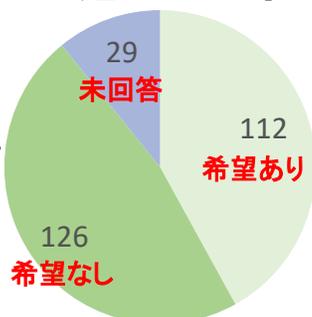


七尾市の「もしもアンケート」の実施を受けて...

当院外来患者対象のアンケートを実施

7月14、15日に実施した病院アンケートにおいて、「終末期における意思決定について」の質問を記載しました。左記の質問に対して、267件の回答がありました

「Qあなたは、自分の終末期医療について希望はありますか？」

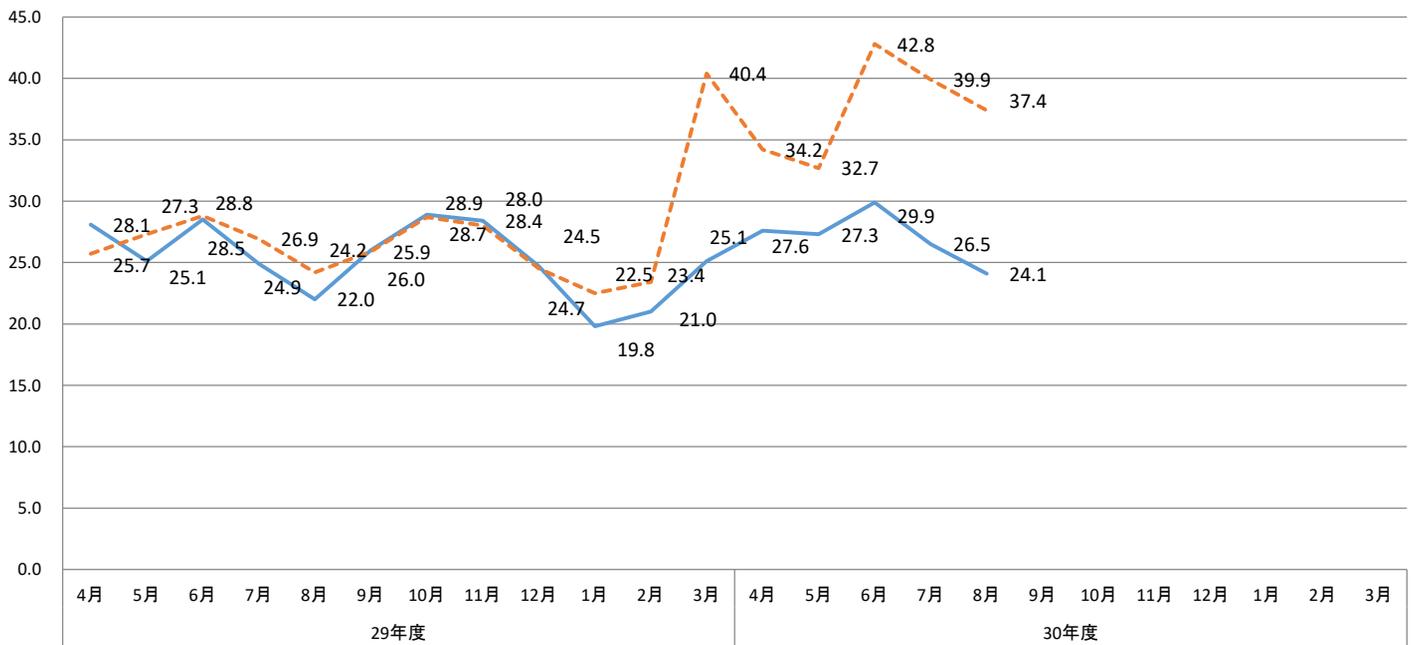


【自由意見】(一部)

- 希望あり
 - ・人工呼吸器や胃ろうはつけたくない。
 - ・本人、家族にはできる限りわかりやすいICを行い希望にそったケアを行ってほしい。苦痛の緩和を大事にしてほしい。
 - ・苦痛は抑えて欲しい。家族と話して治療を考えたい。
 - ・最後まで病院で治療を受けたい。自然なかたちで。
- 希望なし
 - ・延命処置をせず、寿命がきたら、いく。
 - ・自分の終末期医療はまだ考えていないが、家族の終末期について十分な説明を選択肢を示してもらえればと思う。

紹介率・逆紹介率の実績報告

棒線:紹介率 点線:逆紹介率



高額医療機器共同利用件数

	6月	7月	8月
CT	31	24	27
MRI	10	10	19
内視鏡	4	9	4
NCV	0	4	0
その他	3	0	0
合計	48	47	50

高額医療機器共同利用は他にも、核医学、超音波、マンモグラフィー、骨塩定量検査等行っています。また、緊急を要する場合は直接担当科へのご紹介をお願いしておりますので、ご了承くださいませようお願いいたします。

外来診療のお知らせ

呼吸器外来の診察日が増え、月曜日・水曜日の週2日間の診察となりました。

ドクターヘリ搬送訓練



平成30年9月19日(水)に当院にてドクターヘリの搬送訓練が行われました。当院は災害拠点病院ということもあり、敷地内にヘリポートがあります。今までも何度か緊急のヘリコプターの受け入れを行ってききましたが、今回は初のドクターヘリでの訓練となりました。

今回は当院から石川県立中央病院への搬送訓練でしたが、運用が開始された場合、脳卒中等についてはフライトドクターが判断し、公立能登総合病院へ搬送することも想定されています。石川県立中央病院から公立能登総合病院まではヘリコプターで15~20分ということで、能登地域の救急搬送にかかる時間の短縮が期待されます。

